

若手女性農業者の交流と経営参画をサポート

～農業実践力向上研修の開催～

1 活動のねらい

若手女性農業者が次世代の重要な担い手として農業経営や地域農業に参加することを目的とし、知識の習得やキャリアプランの作成、女性農業者同士の交流を図る農業実践力向上研修を開催しました。研修を通して学んだ知識を自身の経営に活かすだけでなく、将来の目標を思い描き、その実現に向けてどう行動していくかを考える研修会となるよう企画しました。

2 課題の背景

若手女性農業者は結婚を機に就農する事例が多く、また家庭での役割が大きいため、農業に関する知識や技術等を得る機会が不足し、農業経営に主体的に参画しにくいという課題があります。また、身近に相談相手がおらず孤立してしまうのを防ぐため、若手女性農業者同士の交流の場が求められています。一方、女性農業者が独自の視点を発揮して経営発展や地域農業に貢献をしている事例は多くあり、そのような先輩女性農業者と若手女性農業者の交流も望まれています。

3 普及活動の経過・結果

(1) 参加しやすい研修づくり

受講対象者は子育てや農作業で時間の制約があること、遠方への移動が困難なことが研修参加を難しくしていました。そこで、令和4年度から5年度にかけて行ったアンケート調査を基に、研修時間は午前又は午後の早い時間に2時間程度という短時間で設定しました。また、メイン会場のほかにオンラインでつないだサテライト会場を2会場設け、自宅からのオンライン受講も可能としました。受講者からは、「子供のお迎えに間に合うので参加しやすい」といった声があり、乳幼児がいる受講者からの申込もありました。

(2) 講義による知識の習得や事例の共有

令和5年度の第1回研修は、女性農業者が中心的に係わる傾向が高く、アンケートでも要望のあった販売をテーマとしました。地域の農産物PRや6次化支援の経験が豊富な講師を招き、「新規のお客様の獲得・購入につながるPR」というテーマで、販売方法、客層、目的にあわせた情報発信方法の使い分けや、チラシ、ポップ、SNS等を利用する際のポイントを学びました。オンラインを含め5名が参加し、「自分の顧客の心をつかむのは何か聞けて良かった」といった前向きな意見が聞かれました。また、自身で作ったポップやチラシを講師に添削してもらう受講者もいました。

第2回の研修では、栽培管理や雇用管理、経理や販売等幅広く農業経営に携わり、地域の女性農業者グループにも所属して活躍している市原市の女性農業者に、「経営のパートナーとしての役割の確立とステップアップ」と題して講演してもらいました。自身の経営参画の過程、子育てと仕事のバランス、地域の活動に参加して学んだこと、現在経営で工夫していることや今後の目標について話してもらいました。課題を一つ一つ改善して経営を良くしている様子が伝わり、参加した8名と講師の間で省力化の考え方や通帳を活用した経営管理など具体的な話題について活発な意見が交わされました。



写真1 講師と意見交換する参加者

(3) キャリアプランの作成と受講者同士の交流

研修では講義後に実習を行い、農業経営上の目標や興味のあるテーマについて今後の行動計画を考えてもらい、受講者同士で共有しました。自身のこれまでの歩みや目標を改めて見つめ直し、今後の行動にどう活かすかを書き出すことで、「ぼんやりとやりたいことのイメージはあっても何をしたら良いかわからなかったが、具体的な計画を立てられた」といった声が聞かれました。第1回の実習で目標として挙げた事項を第2回の研修までに達成した受講者もあり、日々忙しく過ごす中で改めて経営参画について考えるよいきっかけとなりました。また参集範囲を地域の女性農業者グループにも広げたため、先輩女性農業者から具体的なアドバイスもあり、交流の輪が広がりました。



写真2 実習で交流を深める参加者

4 今後の課題

参加しやすい研修の場づくりに努めたものの、受講者の出席率は依然低い傾向にありました。次年度は、品目を絞って研修会を開催し、共通する課題を解決できるような学びの場を女性農業者に提供するとともに、受講者の要望に対応できる工夫をしていく予定です。

5 担当者 千葉・習志野グループ 間宮ちさこ、市原グループ 山下瀬里奈
八千代グループ 小塚玲子、◎武田藍

6 協力機関 千葉市、習志野市、市原市、八千代市